

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	第2年次は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、一年を通し、フィリピン国内及び海外との行き来が難しい状況が続いたため、計画通りの活動を実施することが極めて難しかったが、そのような中でも ZOOM を使用し、フィリピン各地とを繋いで養蚕普及振興のためのリーダーを対象としたオンライン・セミナーを実施するなどし、養蚕の普及に努めた。 ネグロスシルク事業をモデルとする養蚕普及振興のためのリーダー及び養蚕短期研修による農家育成を通じて国内6州（ベンゲット州、ヌエバビスカヤ州、東ミサミス州、ア克蘭州、イロイロ州、アンティケ州）に養蚕普及が図られ、養蚕農家の誕生とともに繭及び良質の生糸が増産される。 各州における養蚕普及のためのリーダー育成セミナー及び養蚕農家向け短期研修、さらに桑苗植え付けによる桑園整備等に重点を置き、蚕飼育試験によるモデル農家の誕生を目指す。 1 地区リーダー ・目標人数 66名 ・達成人数 84名 2 養蚕農家及びモデル農家 ・目標人数 85名 (→活動来期へ延期) 3 訪日研修による日本の蚕糸業理解 ・目標人数 9名 (→活動来期へ延期) 4 養蚕農家数 ・目標軒数 88戸（ベンゲット州10戸、ヌエバビスカヤ州8戸、東ミサミス州10戸、ア克蘭州10戸、イロイロ州20戸、アンティケ州30戸） ・実績軒数 47戸（ベンゲット州15戸、ヌエバビスカヤ州5戸、東ミサミス州8戸、イロイロ州9戸、ア克蘭州10戸、アンティケ州0戸） 5 生繭生産 ・目標生産量 12,000kg（6州：2,000kg） ・実績生産量 6,120kg（6州：315kg） 6 生糸生産 ・目標生産量 1,500kg（6州：240kg） ・実績生産量 385kg（6州：60kg）

(2) 事業内容	< 1. 各州地域養蚕振興のためのリーダーを対象とするセミナー> 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、フィリピン国内での行き来が難しい状況が続いたため、ZOOM を使用し、フィリピン各地を繋いで養蚕普及振興のためのリーダーを対象としたオンライン・セミナーを実施した。 日時及び参加地域等以下の通り。 ・ 10月21日 —— イロイロ州、ア克蘭州 (1回目) ・ 10月29, 30日 —— ベンゲット州 (14人)、ヌエバビスカヤ州 (13人)、東ミサミス州 (27人)、アンティケ州 (12人) ・ 11月9日 —— イロイロ州 (計10人)、ア克蘭州 (計8人) (2回目) ・ 11月19日 —— 東ミサミス州 (政府スタッフへのセミナー) ※これまでのセミナーを受けて、コクーン・フレーム (族) に関する参加者からの依頼があり、追加で行われた。 < 2. 養蚕を目指す農家対象の短期研修> 各州においてPTRI, FIDA及び州農業局担当者等と調整の上、養蚕を目指す農家を選抜して実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響を受け、当該研修は来年度 (第3年次) に実施を延期する。 < 3. 日本人専門家及び現地スタッフによるセミナー及び実地指導> 上記感染症蔓延により日比両国で入国禁止措置が拡大し、日本からフィリピンへの来比が1年を通して難しかったため、当該研修は来年度 (第3年次) に実施を延期する。 そのような状況下ではあったが、オイスカ・バゴ研修センターのスタッフのみでビサヤ地区 (ア克蘭、アンティケ、イロイロの各州) を中心に現地指導を行った。上記感染拡大前の1月中旬から2月中旬の約1か月間、イロイロ州ランブーナオ町に滞在し、蚕の掃き立て孵化から、繭の収穫まで5軒の農家に対しFIDAの担当スタッフとともに毎日技術指導を行った。 また、ベンゲットにおいては同地で、FIDAが主催し、オイスカと各バランガイが協賛する形で、下記の通りセミナーを実施した。 ・ 2月25日 —— タロイノルテ 参加農家: 28名 ・ 3月12日 —— ナガリサン 参加農家: 42名 さらに、下半期に入り、上記の感染状態を確認しながら、必要に応じオイスカ・バゴ研修センターのスタッフがビサヤ地区 (ア克蘭、アンティケ、イロイロの各州) の養蚕農家を訪問・指導した。また、オンラインで開催されたリーダー・セミナーの中で、芦澤専門家から養蚕に対するメッセージ、また桑の収穫や給桑などの指導、日本の養蚕について動画に撮影したものを使用して、各州農家への関心を引き付けることに腐心した。事後のアンケート結果において、当方の予想を超える農家の関心を引き付けられていたことが判明した。 < 4. 各州地域代表者の訪日視察研修> 中間報告書提出後も、下半期10～11月を目途に実施の再検討を行ったが、上記感染症拡大は期待ほどには収まらず、日本及びフィリピン国政府の外国人入国制限が継続されたため、当該研修は来年度 (第3年次) に実施を延期する。
-----------------	--

	< 5. 持続発展に向けたフィリピン政府等関係機関との取り組みの実施 > 1 PTRI がルソン島、ミンダナオ島で蚕種製造所の再建設、蚕品種の導入、繅糸機の設置等を計画しており、また一方、ネグロスシルク生産所内の蚕種保存冷蔵施設設置が進行している。 2 東ミサミス州、FIDA リージョン10、PTRI リージョン10及びオイスカの四者で「養蚕業発展小委員会」が結成された。当初4者での定期的な会合を開催予定していたが、各政府職員の勤務スケジュールがコロナウイルスの蔓延具合により、政府間、地域ごとに異なるために、4者で会合を行うことは非常に困難であった。しかしながら、オイスカを媒介としてしばしば2～3者の会談は実施された。 3 マラニオン元西ネグロス州知事によって執行された、養蚕業に対する予算において、州内18の農業組合に対し31棟の荘蚕所建設が完了した。
(3) 達成された成果	< 1. 各州地域養蚕振興のためのリーダーを対象とするセミナー > 指標：各州12名のリーダーが誕生する（ヌエバビスカヤ州6名） 成果1：ZOOMを使用したオンライン開催により、計画人数以上の78名が参加した。「実地」で学ぶべき点に関しては、来年度の「短期研修」にて補う。 成果2：①の成果を受けて、それぞれの当該地域での養蚕普及への取り組みの重要性が殆どの参加者に理解されたことにより、当該地域への養蚕普及の進展が期待される。 < 2. 養蚕を目指す農家対象の短期研修 > →来年度へ実施延期する。 < 3. 日本人専門家及び現地スタッフによるセミナー及び実地指導 > →コロナ禍により日本人専門家の派遣は出来なかったが、現地担当スタッフの長期滞在による農家指導を行った。 1 イロイロ州ランブーナオ町（1戸の養蚕農家に4戸の農家が集まる形）において、約1か月間の養蚕指導を実施した。 成果：養蚕の一連の流れを実践を交えて細かい指導が行われたことにより、養蚕の基本を身に着け、的確な桑の植え付けの理解が深化した。 2 同州にて蚕種専門スタッフによるセミナー（農家5戸、1週間）を実施した。 成果：FIDA職員4名によるオブザーバー参加もあり、多くの質問に対して丁寧な解説で回答がなされ、総合的な養蚕についての理解が深まった。 3 ベンゲット州2地区においてFIDAが主催し、オイスカが協賛する形で、セミナーを2回開催した。 成果：現地に即した苗の植え付けや荘蚕方法の理解へと導くことが出来た。 < 4. 各州地域代表者の訪日視察研修 > →来年度へ実施延期する。 ※その他

	1. 壮蚕所の建設 ベンゲット州において9棟、東ミサミス州において1棟の壮蚕所が建設された。今後は、良質の繭、生糸の生産というプロジェクト目標達成のためのベースの存在となる。 2. 西ネグロス州における活動 マラニオン元西ネグロス州知事によって執行された、養蚕業に対する予算で、州内18箇所の農業組合に分配され、壮蚕所設置計画の31棟中、中間報告時点で26棟が建設された壮蚕所設置は、この下半期で3つの農業組合に対し5棟の壮蚕所建設が終了し、計画していたすべての壮蚕所設置が完了した。 3. 「持続可能な開発目標(SDGs)」に該当する目標における成果の視点より 目標1, 2で掲げる、貧困層やジェンダーに配慮した飢餓解消策の一つとして当事業を推進しているが、(2)事業内容でも記載したオンライン・セミナーの中で、「PROJECT 30」を提案した。 30(桑の栽培面積30アール) 30(桑の葉の年間生産量30キログラム) 30(壮蚕作業による年収30,000ペソ) (いずれも、初心者農家の目標とすべき数値) 4. 2年次の裨益者数は以下のとおり。 ※()内は事業計画時の直接及び間接裨益者数 ・ベンゲット州ラトリニダッド 直接裨益者数: 40人(280人) 間接裨益者数: 200人(2800人) ・ヌエバビスカヤ州ジャディ、バヨンボン 直接裨益者数: 50人(360人) 間接裨益者数: 250人(2160人) ・ア克蘭州イバハイ 直接裨益者数: 30人(370人) 間接裨益者数: 300人(3700人) ・東ミサミス州クラベリア 直接裨益者数: 35人(280人) 間接裨益者数: 300人(2800人) ・イロイロ州ランブーナオ 直接裨益者数: 40人(220人) 間接裨益者数: 400人(2200人) ・アンティケ州サンホセ、シバロム 直接裨益者数: 20人(450人) 間接裨益者数: 200人(4500人) ・西ネグロス州バゴ市(訪問者等) 直接裨益者数: 100人(9000~10000人) 間接裨益者数: 1000人(90000~100000人) 「直接裨益者数」は、一般論として、参加農家の桑畑、壮蚕所等を訪問し、プロジェクトに関する質問をしたり、プロジェクトを見学したりした人々をカウントしたものである。また、事業内容の中の「オンライン・セミナー」参加農家、及び普及員に直接指導を受けた各地の農家は当該人数に含まれる。
--	--

	「間接裨益者数」は、直接裨益者から主に口頭によりプロジェクトを知った者で、それらの家族、友人、関係者で、当プロジェクトの知己に至ったと考えられる、およその人数である。
(4) 持続発展性	1. リーダー・セミナーをオンライン形式で行い、全プロジェクト実施州6州から合計84名の参加者を得た。シルク事業の成功事例であるオイスカ・バゴセンターの現場で体感することができないことに危惧の念は否めなかったが、予想以上に参加農家の関心は高く、質疑応答の時間は延長され、非常に有意義な行事となった。次年度もコロナウイルスの感染状況に左右される可能性は否定できないだけに、代替策の選択肢の一つとして、考慮したい。 2. 上記したオンライン・セミナーの中の一回は、東ミサミス州のPTRI, DOST RegionXの職員が参加者であった。プレゼンテーションの内容は、如何にしてオイスカが桑の生産、蚕の生産を地道に向上させてきたかを提示したものであるが、それを真摯に学ぼうとする姿勢は、彼らなりのプライドがあり、保持する技術を誇りに思っている中で、敬意を表するに値する。改めて下記するが、今後のプロジェクトのメンテナンスは彼らの指導力に掛かっており、今回の彼らの参加は、将来の展望を大いに期待させるものであると言える。 3. イロイロ州及びベンゲット州において、FIDA と合同でセミナーを実施した。FIDA 独自のセミナーは当然実施されているが、今後はこのような「協働」の形でセミナー、研修を行っていき、お互いに切磋琢磨していくことで、より高いレベルでの農家への指導が実施されるであろう。 4. 今年度は、コロナウイルス蔓延前に、オイスカスタッフが日本人専門家不在の中、単独で1か月間短期研修を実施しており、非常に有意義な結果をお互いに残している。どうしても日本人専門家に頼りがちだったフィリピン人スタッフが、自分たち（だけ）で実施できたことに自信を深め、農家とも親しい関係性を築くことができたことは特筆すべきであろう。今後の長期にわたる養蚕事業の発展を促進させる、有意義な行事の実施であった。